

#5 その日の夜

部屋にはビールやらつまみ類が……

父4がウクレレで「上を向いて歩こう」を演奏している。

父4 なつみだがっこぼれっないよくに

女1が演奏に合わせて踊っている。

女4は部屋の隅で膝を抱えてこの光景を眺めている。

男の姿はない……やがて演奏が終わる。

父4 イイエイツ、アロ〜ハッ！

女1 イロ〜ハッ！（と、ポーズ）

父4 うまい、面白いっ！（拍手）

女1 そっか、この曲私が生まれる前なんだ。

父4 全米ナンバー1ヒット キュウ・サカモト ジス イズ スキヤキソーニング
っ！

女1 イエ〜。

父4 だけど美津子ちゃん上手だね、ダンス。

女1 イエ〜。

父4 タンゴっ、ジャンジャカジャンジャン（弾く）

女1 （合わせて踊る）

父4 次、ワルツっ、ジャンジャジャーン ジャンジャジャーン（弾く）

女1 （合わせて踊る）

父4 ヒュウー ヒュウー。

女1 伊達に二十年踊ってないわよ〜。

父4 ちよつと休憩しよ、汗が光ってるぜ、美津子ちゃん。

と、父4タバコに火、どんぶりの中には大量な吸殻。

女1 もう一度カンパ〜イ。

父4 カンパ〜イ……ほらほら理沙ちゃんも。

女 4 …カンパーイ。

父 4 正直あいつはどうなのよ。

女 1 どうって？

父 4 なんかもうこの世の終わりみたいな顔してるけど。

女 1 この世の終わりなんじゃない？

父 4 俺の最近の記憶の中じゃまだ産まれてないんだよな、あいつ。

女 1 ええ？

父 4 ちょうど景子の腹ん中。

女 1 つて事は…お父さん今、あいつと同年だ。

父 4 なあ、そのお父さんつてのやめようぜ。

女 1 何て呼べばいいんだろ。

父 4 タクちゃん。

女 1 え。

父 4 卓二郎だからさ「タク」とか「タクちゃん」とか呼ばれてんの、俺。

女 1 ああ…でも…。

父 4 何？

女 1 私、あいつのことそう呼んでたから…。

父 4 嘘、あいつも「タクちゃん」？ しまった、こうなる事知ってたら違う名前付けたのに。

女 1 よし、付け直しちゃお。

父 4 そうだな、まだ産まれてねえんだもん…よし、今にも死んじやいそうな面してるから「死にかけ」つてのどうだ。

女 1 そんな名前ないでしょ。

父 4 「鈴木死にかけ」…やっぱり変か、ハハハ。

女 4 あ…。

父 4 おつ、いいの思いついた？

女 4 私、帰ってもいいですよね。

父 4 駄目駄目、笑顔戻るまで帰さないよお。

女 4 子供が待つてるんです。

父 4 子供も呼んじゃえ、いいよな美津子ちゃん。

女 1 ええ、もちろん。

女 4 ……

女 1 言ったでしょ、私はもう何とも思っていないって……言いませんでしたっけ？

父 4 言い方きついぞお、美津子ちゃん。

女 1 ああ、私それ悩みの、生徒にもしょっちゅう言われる。

父 4 生徒？

女 1 ジャズダンス教えてるの、文化センターで。

父 4 ジャンジャカジャカジャカジャカ（弾く）

女 1 （合わせて踊る）イエー。

父 4 あ そう、なんか勿体ないなあ、あいつには。

女 1 賛成え。

父 4 理沙ちゃんは仕事なにしてんの？

女 4 え、私は派遣です。

父 4 はけん？

女 1 派遣社員って今は^{話題}ゆなの、手に職がない女性がアチコチの会社行つては軽作

業するんですよ。

女 4 違います。

父 4 だから言い方きついって、美津子ちゃん。

女 1 悩みのよお。

女 4 コンピューターのプログラミングとか、やってるんです。

父 4 ええ、そりや優秀だ。

女 1 でもお父さんが楽器出来るなんて想像もつかなかったな。

父 4 そう？ 俺ね、ハワイアンバンドやってたの。

女 1 え？ バンド？

父 4 「ザ・ナナクリーズ」……オアフ島にナナクリって町があるんだよ、レイ・カー
ネイってスラック・キー・ギターの大神所が住んでる町でさ。

女 1 それで「ナナクリーズ」。

父 4 うん、進駐軍相手にね。

女 1 へえ……進駐軍……ギブミーチョコレート。

父 4 そうそう、周りはジャズがほとんど、ハワイアンなんかやってる奴ほとんどい

ないし演奏だつて命がけ、なんたつてリメンバー・パールハーバーだもん。

女 1 へえ、なんかカッコイイなあ。

父 4 だろ？ 俺なんかもうモテちゃつて大変だつたんだぜ、ホントに。

女 1 あ、その話お母さんから聞かされたあ。

父 4 え、景子が何か言つてた？

女 1 ずいぶん泣かされたつて。

父 4 ウソウソ、俺は女房泣かすような真似しないもん、怒らせただけ、ハハハ。

女 4 私もちよつとだけコピーバンドやつてたんですよ、キーボード。

父 4 へえ、理沙ちゃんも？

女 4 ええ、プリプリを……ずいぶん昔の話ですけど。

父 4 (お尻つつく) 今でも充分プリプリだよお、理沙ちゃん……あれ、タバコ切れちやつた。

女 4 あ……これ良かったら。

父 4 あ そう？ 悪いね (タバコに火)。

女 1 へえ、佐藤さん吸うんだ。

女 4 いけませんか？

女 1 いいえ、別に。

父 4 まあ、女のタバコはあまりみつともいいもんじゃないよな。

女 1 お父さんもタバコ吸いすぎ、それにチーカマに唐辛子かけたりして、そのうち胃に穴あいちやうぞお。

父 4 平気平気、ヤワな胃袋してちや高度成長乗り切れませんつて。

女 1 スイススイスーダララッタ

父 4 スラスラスイスイスイ……よし、決めた、バンド組んじゃお。

女 1 え？

父 4 「モモクリーズ」つての、美津子ちゃんダンサーでさ……あいつは何か楽器出来るの？

女 1 駄目駄目、リズム感ないつて言うか運動神経切れてるし。

父 4 マネージャーでいいや。

父 4、演奏。

父 4 ……美津子ちゃん、これ知ってる？

女 1 え……何だろう……ブルーハワイとか？

父 4 惜しい……「マイ・イエロー・ジンジャー・レイ」……スタンダード・ハワイアン。
ン。

女 1 へえ……悲しい感じの曲だなあ。

父 4 君と過ごした夢見心地の時間 君を愛してしまいそうだ……って曲。

女 1 難しいんだよね、フラダンスって。

父 4 イッツ ハワイアンタイム。

と、父4は鼻歌交じりに歌いだす。

女1、フラダンスを踊る……踊りながら女4を見据える。

女 1 ……。

女 4 ……なんです。

女 1 ……一緒にいたいんですか？

女 4 え？

女 1 あいつと……。

女 4 別に……。

女 1 なら、もう捨てちゃって下さい。

女 4 ……。

女 1 私も捨てちゃいましたから。

女 4 ……。

女4も女1を見据えながら踊り始める……二人、ゆったりと踊っている……。

と、父1と父2が動き出す……部屋のモノ（例えば孫の手とコップとか杖とか）を手にして打楽器に……。

と同時に父5がベランダから、父6が洗濯機から上半身出して、それぞれウクレレを弾きながら現れる。

さらに女3が冷蔵庫から出てきてフラダンスに参加。

「ヒト」「ぬけがら」「靈魂」による大(?) ハワイアンショー。

曲が終わると父1と父2は元の場所に……父5と父6は姿を消し、女3は冷蔵庫に引込む。

父4 イエーイ、アローハっ！

女1 イロ〜ハっ！

父4 (拍手) いいなあ、いいつ、凄くいいつ！

女4 私、帰ります。

父4 え、もう？

女4 さすがにそろそろ帰ってやらないと。

父4 あいつももうすぐ戻ってくると思うけど。

女4 ですからその前に……邪魔しました。

父4 そう……必ず連絡してよ。

女4 え？

父4 だって、「モモクリーズ」。

女4 ……はいつ、ありがとうございます。

父4 そんなじゃあ、

女4、帰っていく。

父4 そんな悪い女って感じじゃないんだけどなあ、ね。

女1 さてつと。

父4 おいおい。

女1 だって。

父4 まだビール残ってるし。

女1 じゃあ、これ空けるまで。

父4 あいつどこまで行っただろうなあ、ったく。

女1 ねえ、お母さんとはいつ知り合ったの？

父4 俺？ 二十三、四の頃だったな。

女1 ならお母さんが……。

父 4 二十歳前。

女 1 うわー、乙女え。

父 4 結婚するまで随分ウダウダしてた……バンドやってたから。
女 1 連れ添って……。

父 4 だから、えつと……半世紀つてことか。

女 1 うわあ……そう考えると短かったなあ。

父 4 過去形なんだ、やっぱり。

女 1 私ね、勘違いしてた。

父 4 ？

女 1 夫婦が駄目になるのは小さい危機の積み重ねだと思ってた、侵蝕される感じ？

父 4 小さい危機？

女 1 私の得意料理、チキンの竜田揚げにあいつがウスターソースをドバドバかけた瞬間。

父 4 ああ。

女 1 私が大事にしてたジャネットのビデオテープの上にハッスルしてる小川直也が

録画されてた時、ダンスの公演に健康サンダル履いて観に来た時、結婚五年目には観にも来なくてこの先もう観てくれないんだろうなあと思感した時、洗ったカッターシャツが一枚もなくなってる事に気付いた水曜日の朝、あいつが卵ご飯だけをかき込んで出掛ける様子をベッドの中で伺った二日酔いの朝、深夜番組で大笑いしてる私の横にキョトンとした顔で見てるあいつがいた午前一時……以下、省略……私ね、そういう積み重ねだと思ってたんだよね。

父 4 違ったの？

女 1 違ったねえ、やっぱりデカイ一発だねえ。

女 1、突然逆立ち（壁にもたれて）。

父 4 おっ。

女 1 医者から妊娠は難しいって医学的に宣告された瞬間……月に一回指定された日に狙いを定めて射精の直後に逆立ちする……セックスの義務化、でもその分強化される信頼と愛情……。

父 4 酒飲んでんのに、血管切れちゃうぞ。

女 1 …結構デカかったのかな、これも。

女 1、逆立ちをやめると残りのビールを一気飲み。

女 1 プハッ…っで帰ります。

父 4 大丈夫？ 泊まつてってもいいんだよ。

女 1 まさか。

父 4 フラフラしてるぞ、美津子ちゃん。

女 1 帰ってきたら離婚届郵送するから判押すように伝えて下さい。

父 4 でも「モモクリーズ」はやろうよ、な。

女 1 無理無理、フラダンス難しいです。

父 4 そ。

女 1、祭壇の前に座るとお鈴を鳴らして…。

女 1 …さようなら。

父 4 元気出して、な、美津子ちゃん。

女 1 何言ってるの、元気じゃないですか。

女 1、帰って行った。

父 4 …(タバコに火)。

父 4、ゆつくり「マイ・イエロー・ジンジャー・レイ」を爪弾く。

父 4 …悲しい感じの曲か…結構こたえてんだなあ、ああ見えても…ん？

父 4、女 1 が逆立ちした辺りに何か落ちてるのを見つけて拾い上げる。

父 4 …ヘアピンだ。

と、濡れた男がスポーツバッグ抱えて帰ってくる。

父 4 うわあ、惜しいなあ。

男 ……

父 4 今の今までみんな居たのにい。

男、ビールの空缶やら見て……

男 何やってた。

父 4 宴会。

男 ……どれだけ探したと思ってる。

父 4 え？

男 これをだよ、これっ！

男、スポーツバッグを放る。

父 4 何だ、これ。

男 あんたが公園のトイレで脱ぎ捨てた「ぬけがら」だよつ。

父 4 え？ こん中詰めちゃったの？

男 見せびらかして歩いてこれるか。

父 4、バッグを開けてみると父 3 の「手」が見える。

父 4 あっ、ホントだ。

男 公衆トイレのある公園だったってな、一体いくつあると思ってんだ。

父 4 だって町並みすっかり変わっちゃっててどこがどこやら分かんなくなっちゃってさ。

男 (賀状出して) 住所の近くにある公園しらみ潰しに見て回ったけど見つからないし、道行く人に尋ねたけどうまく説明出来なくて、そのうち夕立になっちゃ
うし

父 4 え？ 雨降った？

男 スクールだよ、スクール……気付かない程盛り上がったって訳か。

父 4 そうだよな、汗にしちゃ濡れすぎだなんて

男 汗と雨つ、両方っ！

父 4 もう……そう怒るなよ。

男 高架下で雨宿りしてたらフニャフニャの親父引き摺って歩いてるホームレスのおっさん見つけたんだよつ、交渉しても自分のもんだって言い張るから千円渡して買い戻したんだぞっ！

父 4 別にいいじゃないか、くれてやれば。

男 よく言うよ、あんた……俺の親父だぞ、引き摺られてんだぞ、それもホームレスに。

父 4 ところでホームレスって何？

男 ルンペンだよつ……スッポンポンでほったらかしにしがって。

父 4 じゃなきゃ俺がスッポンポンだもん。

男 その下品なアロハ買った後に服戻すくらいの愛情ないのか、さっきまでの自分だぞ。

父 4 1500円もした、俺の頃ならラーメン三十杯は食べちゃうな。

男 ……

男、スポーツバッグをベッドの上に置く。

男 美津子いたの。

父 4 ダンス披露してくれた、もう美津子ちゃん汗飛び散らかせて。

男 佐藤さんも？

父 4 バンド組むことにした。

男 はあ？

父 4 でも二人じゃバンドって言わないか、二人って何て言う？

男 コンビ。

父 4 ハハハ、それじゃあ漫才だよ。

男 えーと、一体何がどうなってそんな展開になったんだ？

父 4 どうもこうもお前が出てってから美津子ちゃんがビール買ってきてくれて、飲んで騒いで歌って踊って。

男 ……

父 4 安心しろ、二人とも仲良くしてたし。

男 くそっ……気になるなあ……。

父 4 でも美津子ちゃんはやびつとキツかったかなあ。

男 あのさあ、人の女房にちゃん付けするの止めてもらえるかな。

父 4 嫁にちゃん付けするのおかしいか？

男 こう言っちゃ何だけどさ……俺の親父って感じしないんだよ、あんたの場合。

父 4 そりゃそうだ、俺だって全然実感湧かないもん……あれ？

男 え？

父 4 お前離婚すんだろ？

男 ……まあ。

父 4 だったら俺がどう呼ぼうと勝手だろ？ そうだ、この際付き合っちゃおか

な……俺、今もう独身だし。

男 正気で言ってるのか。

父 4 竜田揚げにソースかけるようなマネしないからな、俺は。

男 何だそれ。

父 4 覚えてないか……ま、そんなもんかもな。

男 とにかく俺達はまだ法的には夫婦なんだから

父 4 あ、出た「とにかく」……いいいいいよ、俺は理沙ちゃんの方がタイプだし。

男 ……。

父 4 怒るなって、冗談なんだから半分は。

男 呆れてんだ、俺は。

父 4 なあ、お前、完全に置いてけぼりだぞお。

男 何が。

父 4 美津子ちゃんからも、理沙ちゃんからも……あの二人お前より随分と先歩いてるぞ。

男 ……。

父 4 離婚届は郵送するってさ……もはやお前に望みはないよ。

男 ……。

父 4 なあ、もう観念してさ、タバコ買ってきてくんない？ チェリー、なけりやハ
イライト。

男 いい加減にしろよ……お前。

父 4 あん？

男 ……面影が無いんだよ。

父 4 面影？

男 もう俺の知らない男になっちゃってるんだよ……あんた。

父 4 ……

男 この先、どこまで「ぬけがら」脱ぐのか判らないけど、この先どこまで行っても俺の知らない男だ……そのうち赤ン坊にまでなるつもりか？

父 4 ちようどいいな、お前んとこ子供いないんだし。

男 言ってる意味判らないかな。

父 4 は？

男 もう、あんたと一緒に住む理由は俺にはないって言ってるんだ。

父 4 おいおい、ここは俺の家だぜ。

男 俺が生まれ育った家だ。

父 4 ……

男 それにここはもうお前の家じゃない……そこに転がってるあの（父1）親父の家だ。

家だ。

父 4 まあまあ、落ち着いてお前も……あ、飲めないんだっけ。

男 ……

父 4 タバコは？

男 ……

父 4 品行方正だなあ、今の時代そんなのが流行ってるのか？ それにしちや女がタバコ吸ってるし……（タバコに火）これ理沙ちゃんがくれたんだけどスツカスカなんだよねえ。

男 理沙の住所教えてやるよ。

父 4 あん？

男 コンビ組むんだろ、お前さつきそう言ってたよな。

父 4 一つだけ忠告しとくけどさ……俺のこと「お前」って呼ぶのやめろよ。

男 どうして。

父 4 だって無理してるの見え見えだもん。

男 無理？

父 4 「お前」って呼んでもいいかなあ、やっぱり「あんた」くらいにしようか、でも強気に出るとこアピールしたいし思い切って「お前」って呼んだ方がいいかしらってね。

男 ……

父 4 ほら、図星だろ。

男 嫌な奴だな、お前。

父 4 だから無理すんなって。

男 ……（見据える）。

父 4 （顔触って）何かついてる？

男 ガツカリだな……まったく。

父 4 失礼しちゃうなあ、人の顔見てガツカリすんなよお。

男 これが俺の父親か……

父 4 当たり前なこと確認すんな。

男 チンピラだな、見れば見る程。

父 4 馬鹿、社長だよ。

男 社長？

父 4 そうだよお、もつとも今はまだ三人しかいないけどな。

男 何だそりゃ。

父 4 今の……今って言っても俺の今だけだな……凄惨宅地ブームなんだよ。判るか、田んぼ潰してそこらじゅうドンドン宅地よお。

男 土地転がしでもするつもりか。

父 4 もつと頭使えよ、遊具だよ。

男 遊具？

父 4 当然、都市計画にも公園が入ってる、そしたらブランコだつて必要だろ。俺達はその目にえつけてさ、新しい遊具の開発研究に取り組んでるって訳だ。目玉は新幹線の形したシーソー、夢の超特急でギッタンバッコン……どう？ これ俺のアイデアだぜ。

男 その三人って。

父 4 元バンマスとギターとその彼女……その女が鉄工所のお嬢さんでさ、うまい具

合に親父さん丸め込んで安価で遊具作れば大儲け出来るんだよ。

男 そんな話聞いた事ないぞ。

父 4 そりゃ機密事項だもん。

男 そうじゃなくて、俺が物心ついた頃には電器屋で配送してたんだよ、親父は。

父 4 え？ 電器屋？ なんで？

男 俺の知る限り親父は社長でも部長でもなかったし、この（父3）時に勤めたトヨタの下請けで定年まで過ごしたんだよ。

父 4 なら大日本教育遊具株式会社は？

男 そんな胡散臭い会社聞いた事もねえよ。

父 4 え、なら頓挫しちやつたの？ そうなの？

男 知るか、俺が。

父 4 あ、しよん、鉄工所の娘とギタンのベッ
ええ……ヤバイなあ、俺が彼女にちよつかい出したのギターにバレたのかな。

男 そうか……あんたの事だな。

父 4 え、俺他にもやらかした？

男 おふくろから散々聞かされたよ、浮かれた生活が染み付いて仕事はすぐに変わ

るし女遊びは収まらないし……だから安定が一番だ、「長いものには巻かれろ」
「寄らば大樹の陰」……そう教えられてきたんだ、俺は……そうか、張本人はお前だったんだな。

父 4 張本人？ え？ やっぱバレたって事？

男 出てつてくれ、この家から。

父 4 冗談言うな、この県営クジ当てたの俺なんだぞ。

男 知らなきゃ良かった、目の当たりにしなきゃ良かった……こんなチンピラ。

父 4 あのだ、お前さつきから父親に向かってチンピラって。

男 お前に似なくて良かったよ、俺は。

父 4 ハハハ、よく言うよお、人生メチャクチャになってるクセして。

男 くそっ……こいつの血か……。

父 4 よせよお、お前に俺の血が流れてると思うと気が滅入る。

男 こっちのセリフだっ！

父 4 おいおい、喧嘩は無駄だぞお、こっちはアメ公相手に渡り合って来てるんだから。

男 誰が喧嘩なんかするか、黙ってここから出て行きやいいんだよ。

父 4 厄介だなあ……同い歳の息子つてのはよ……つと。

と、父 4 は男に掴みかかる。

男 おおつ、いきなり……。

父 4 チンピラだとつ、手前、それが父親に向かって吐く言葉かつ！

男 どこが父親なんだ、お前のっ！

二人、しばらくもみ合うが父 4、男に突き飛ばされる。
父 4 は祭壇に直撃、祭壇は崩れ、焼香灰は飛び散る始末。

男 ああ。

父 4 痛え……見ろ、お前のせいで。

男 なんだ、あんた口だけじゃないか。

父 4 へへ、驚いたか。

男 ……。

二人、祭壇を直したり位牌を戻したりし始める。

父 4、遺影を手にする。

父 4 ……。

男 ちょっと、そっちの足付けろよ。

父 4 え、うん……(祭壇の足付ける)……もうすぐ産まれるんだよな。

男 誰が。

父 4 お前がだよ、馬鹿。

男 ああ……。

父 4 奇跡と宿命の果てがこいつとはな。

男 奇跡と宿命？

父 4、ヘアピンを男に。

父 4 ほら。

男 何だよ、これ。

父 4 そいつのおかげでお前は産まれたんだよ。

男 ?

父 4 まあ、いいや……それ、美津子ちゃんの落し物だ。

男 いらないだろ、別にヘアピンの一本くらい。

父 4 いいから持つてろって。

男 ……

父 4 ここにはまだ景子がいるんだ。

男 ……

父 4 だから俺はここにいる……どうしても俺と顔突き合わせるのが嫌ならお前が出て行ってくれよ。

男 ……

父 4 景子が死ぬまですつとここに居たんだろ、俺は……景子と一緒に。

男 ああ。

父 4 なら、ここは俺の住処だ。

男 ……

父 4、後片付け……

暗転。

蝉の鳴き声……